

ウクライナ情勢が世界の酪農乳業に与える影響

2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、欧州では第二次大戦以降で最も急速に拡大する難民危機となっている。ウクライナで酪農業を営むオランダ人が帰国を余儀なくされた状況を伝えるインタビューを、海外の酪農情報誌のウェブサイトをはじめテレビやラジオのニュース番組などのマスメディアが紹介している。この酪農家が3月1日に現地ウクライナから米国を拠点とする農業者団体である「グローバル・ファーマー・ネットワーク」のインタビューに応える様子がYouTubeで配信されている。ウクライナ情勢が小麦やトウモロコシなどの農産物の供給やエネルギー市場をはじめ、新型コロナ禍で混乱した世界に与える影響は計り知れない。英国の酪農経営コンサルタント事業組合が発表した「ウクライナ情勢が世界の乳製品市場に及ぼす影響」に関する報告書の概要や、英国の農業園芸開発委員会(AHDB)が解説した「ロシアとウクライナの乳製品輸入状況」などと合わせて取り上げる。

ウクライナで酪農業を営むオランダ人が現地情報を伝える

3月8日、オランダの酪農情報誌「デーリー・グローバル(Dairy Global)」のウェブサイトに、「オランダの酪農家、ウクライナから避難し、西側の声となる」(*1)と題し、ウクライナで酪農業を営むオランダ人が帰国を余儀なくされた状況を次のように伝えるインタビュー記事が掲載された。

ウクライナで大規模な酪農を営むオランダ人のハイジנג氏は、過去20年間、2人のビジネスパートナーとともに、ウクライナ中心部にある1万5000ヘクタールの大規模農場を運営してきた。2月24日に隣国ロシアがウクライナに侵攻するまでは順調だった。

ニュースを聞いたハイジング氏は、すぐに妻と幼い娘2人をルーマニア経由でオランダに帰国させた。その1週間後、ハイジング氏はウクライナの農業者のために西側で声を上げるべく、家族のもとに帰国し、農場を400人のスタッフに託した。現地では農作業は続いており、2000頭の牛は搾乳が必要で、作物の植え付けの計画も見直さなくてはならない。

ハイジング氏は、オランダのテレビ局のニュース番組(*2)、オーストラリアやニュージーラ

ンドのラジオ局のニュース番組など、複数の海外メディアのインタビューにも応えている(*3, 4)。

3月1日、米国を拠点とする農業者団体「グローバル・ファーマー・ネットワーク(Global Farmer Network)」は、まだ現地ウクライナにいたハイジング氏にインタビューした模様をYouTubeで配信した(*5)。その内容の一部を以下に伝える。

「23日は妻の誕生日でした。今も部屋は飾られたままです。24日の朝、攻撃が始まりました。日中はもちろんパニックでしたが、その日のうちに、妻と子供たちはルーマニアに行くことを決めました。ルーマニアには国境を越えた友人がいます。家族は今日、ルーマニアからオランダ行きの飛行機に乗ることになりました。私たち家族がバラバラになって、もう5、6日になります。」

「ここで農場を経営しており、400人の従業員がいます。みんな頑張っていて、ひとつのチームみたいなものです。だから、ここから離れられません。それに、毎日牛に餌をやり、搾乳しなければなりません。」

「ここでは戦闘は起きていません。初日はここから30~40キロメートル南にある弾薬庫が

長距離ミサイルで爆破されました。そして、一部は空中を飛び、ウーマニの街に着弾し、何人かの人が亡くなりました。でも、ここで実際に起きていることはそれだけです。しかし、人々は皆ピリピリしています。道路封鎖の準備をしています。もちろん、すべては非常に迅速に進めなければなりません。混乱はありますが、皆同じ目標を持っています。ウクライナを守り、自分たちの地域を守ることです。人々は緊張し、恐怖にさらされています。でも、決意は固いと思います。」

「肥料を撒くにも人手が必要ですし、夜間は大きなトラクターが光を放つので撒けません。そして、すべての村に住んでいる人はスイッチを切っていますし、外は真っ暗です。もしトラクターで走り回ったら、ライトのスイッチが入っているため、ドローンやその他からも注意を引くことになるでしょう。でも日中は、できるだけ多くの肥料を撒くようにしています。播種機の修理も早めに完了しようとしています。そのため、古いスペアパーツを機械に戻さなければなりませんし、燃料や肥料の供給も難しく、まだすべてが揃っているわけではありません。つまり、始めるべき作業がまだたくさんあるのです。春は忙しいですが、それほど多くの手は必要ありません。だから、春はなんとかしたいです。でも、春には昼も夜も働くものなので、もし昼しか働けないとなると、どのように行うかは計画できていませんが、数日で明らかになるでしょう。今日、もしすべてが止められてしまい、その状態が数週間続けば、ウクライナの農家は大きく遅れをとることになるでしょう。」

「経営している農地は、約 1 万 5000 ヘクタールです。冬小麦、冬大麦、冬カノーラ、ヒマワリ、トウモロコシ、テンサイ、そして大豆と白インゲン豆を栽培しています。」

「私たちは、ウクライナ全土の農業者を組織

している農業者団体で毎日連絡を取り合っています。組織の最も活発的なメンバーは全部で1100の農業者です。毎日連絡を取り合って、軍隊にも食料を提供しています。例えば、パンを焼くための小麦粉などです。ウクライナ南部では、すでに占領されてしまった場所もあります。牛乳は捨てられないので、地元の人や町に直接牛乳を配っています。ロシア軍が来ていないところならどこにでもです。」

「世界はより開かれていますと思います。ここで起きていることをフォローできるような、より開かれた世界だと思います。しかし、今占領されているのはウクライナ南部の農家たちです。彼らはすでに農作業を始めていました。大麦の植え付けを始めていたのに、それを止められてしまったのです。つまり、農業が停止する最初の兆候が現れているのです。もし人々がトラクターに戻って植え付けを始めなければ、あるいはそれができなければ、とても多くの食料が生産されないということになるのです。ウクライナはとても大きいので、この地域の人々の食料は十分にあるのです。しかし、ウクライナの農業が止まってしまうと、世界市場における大きな需給ギャップとなるでしょう。」

「ウクライナの国旗の色は農業と関係があります。上には青い空と下には黄色い穀物畑です。強い国旗であり、強いシンボルです。ウクライナの穀物や農産物は、ウクライナ国内では 25~30%しか必要とせず、残りは世界市場に出ます。ウクライナは様々な農産物の輸出に関して、多くのものを提供しているのです。しかし、それが影響を受けようとしています。黒海が封鎖されており、そこから多くの農産物が世界市場に輸出されるはずですが、すべてが止まっています。オデッサにロシアの軍艦がいます。オデッサの周辺には、大きな穀物輸出港があり、爆撃を恐れているのです。そのため、

船は停止しています。一日あるいは一週間に何隻の船がオデッサを出航しているのか、今のところ何もわかりません。」

「穀物倉庫は全国にあります。多くの農家が地元や国内の飼料工場に穀物を供給しています。ウクライナの人々の生活を支え、食料を供給するためです。そして、前線にいる兵士に食料を届けるために軍隊にも食料を供給しています。多くの農家が自発的にそうしています。」

「すべての戦争は全く無駄であり、必要なものではありません。プーチンは旧体制の論理でなければ安全でないと感じているのでしょう。しかし、世界は開かれているのです。いまや、全世界がひとつのコミュニティです。世界市場です。そして、すべてがつながっているのです。中国、ロシア、ウクライナ、米国、南米、アフリカ、オーストラリアなどです。すべてがつながっているのです。すべてがつながっていて、みんなが知識を共有しているのです。すべての農家が、より効率的な経営を行おうとしているのです。そして今、ここウクライナで起こっていることは、第一に食料供給において大きな障害をもたらす可能性があります、第二に、私たちがお互いにどう対処するかというグローバルな状況において、たった5~6日しか経っていないため、何が起こり、結末はどうなるかわかりませんが、全世界に壊滅的な打撃を及ぼす可能性があります。」

英国の酪農コンサルティングの報告書

ロシアによるウクライナ侵攻が始まった2月24日、英国の酪農サプライチェーンの経営コンサルタント事業組合であるカイト・コンサルティング(Kite Consulting LLP)が、「ロシアとウクライナの武力紛争は、世界の乳製品の需給にどのような影響を与えるのか、また、英国の酪

農乳業界への影響はどうか?」(*6)と題した報告書を発表した。報告書の要約は以下の内容を伝えている。

ロシア軍のウクライナ侵攻によって、短期的(少なくとも2022年第2四半期末まで)には、世界の生乳価格は最近ではみられたことがないほど急速に上昇することが予想される。

現時点では、世界の乳製品市場はこの侵攻の影響がまだ十分に織り込まれていないために、既に乳製品価格の水準が高いにもかかわらず、さらに上昇する可能性がある。

ウクライナとベラルーシの輸出が一晩で失われた結果、世界の乳製品市場で「パニック買い」が起こり、適度な量しか取引されていないとしても、さらに価格を上昇させるきっかけになる可能性がある。英国では、酪農家が英国の乳業メーカーに対して、世界で起こると思われる生乳価格の上昇に歩調を合わせるよう圧力をかける。

エネルギー価格の上昇により酪農場の生産コストが上昇し、短期的には生乳の売り上げを上回る可能性があるため、生乳価格が上昇しても酪農場の生乳生産は反応しないか、あるいは縮小する可能性さえある。したがって、乳製品価格の上昇をいくらか抑制できるような農場生産の増加は、短期的には起こりそうにない。

英国の乳業メーカーは、エネルギー価格の上昇により、生乳買入れコスト、自社経営コスト、消費者の購買力への影響にも直面することになる。エネルギー価格のさらなる上昇は、消費者インフレをより押し上げ、消費者の購買力を直撃することになるだろう。消費者はすでに食料価格の上昇をはっきり感じており、小売業者もそのことを承知している。これは需要に影響を与える可能性があるため、英国の小売業者はさらなる乳製品の値上げに強い抵抗感

を示すと思われる。

その結果、世界の乳製品市場での販売は、その選択肢を持つ乳業メーカーにとってさらに魅力的になる可能性がある。英国の小売業者が乳業メーカーによるさらなる値上げを受け入れるためには、国内で安い価格で売らなくても海外市場で有利に販売するという選択肢が存在している証拠が必要かもしれない。

この情勢が深刻化した場合、英国の乳業メーカーは、自分たちの追加コスト上昇をまかなうために製品の販売価格をここ数カ月からさらに引き上げ、さらに酪農場でのコスト上昇をまかなうために生乳価格を引き上げて酪農家の収入を増加させることが重要になる。

結果として、ロシアとウクライナの紛争は、世界の乳製品市場に影響を及ぼし、英国での消費者への乳製品価格の上昇は避けられないものと思われる。

英国の AHDB がロシアとウクライナの乳製品貿易の概要を解説

3月3日、英国の農業園芸開発委員会(AHDB)は、「乳製品貿易の概要-ロシアとウクライナ」(*7)と題してウェブサイトにて情報を発信し、次のように解説している。

ウクライナで進行中のロシアの侵攻の影響は、英国や欧州連合(EU)の乳製品市場にはほとんど直接的な影響はないであろう。EU-27や英国を含むほとんどの西側諸国は、ロシアがクリミアを併合した2014年以降、ロシアとの乳製品(および他の多くの農産物)の貿易が禁止されている。ロシアは現在、ほぼ独占的にベラルーシと貿易しており、ロシアの乳製品輸入総額の85%はベラルーシ産の乳製品である。

一方、ウクライナは、ベラルーシからもかなりの量を輸入しているものの、乳製品の輸入は

EU-27への依存度が高い。すべての製品カテゴリーにおいて、ウクライナの乳製品輸入総額の23%をベラルーシが占め、EU-27が76%を占めている。特に、ポーランドとドイツが主要な供給国で、チーズの貿易が多い。英国はウクライナとの貿易をほとんど行っておらず、2021年の乳製品の輸出量は300トン未満である。

EU-27はウクライナが輸入する乳製品の大半の供給元であるが、EU-27の乳製品の対外輸出量のわずか1.6%にしか相当しない。このため、乳製品市場への直接的な混乱は最小限にとどまるはずであり、世界の乳製品の供給が逼迫している中、ウクライナへの供給が途絶えた製品も新しい市場を見つけやすいように思われる。

おわりに

ウクライナ情勢には引き続き最大限の注視が必要である。日本の報道(*8)でも、トウモロコシの国際価格の変動が国内の飼料コストに影響するなど、ウクライナ情勢の影響が日本の酪農にも広がる懸念を伝えている。

なお、近年のロシアの酪農乳業の詳しい状況については、ロシアの酪農乳業組織のアナリストがALICの海外情報に寄稿した記事(*9)を参照願いたい。

また、ウクライナの酪農乳業の状況については、米国農務省海外農務局のグローバル農業情報ネットワーク(GAIN)が昨年10月に発表した報告書(*10)において次のように要約するとともに、ウクライナは乳製品の純輸入国となっていることを報告している。

ウクライナの生乳生産は、乳牛頭数が減少したことにより2020/21年も減少が続いている。効率の高い産業的な酪農場の数は増加しつつあるものの、生乳の大部分は効率が低い

家族経営で生産されている。生乳買入れ価格は2020/21年は大きく伸びた。これは、エネルギーコストの高騰により、生乳生産コストが上昇したことが一因である。また、乳製品の価格は史上最高値に急騰した。2021年、ウクライナはバターと脱脂粉乳のエネルギー集約型の生産と輸出を減らし、国内で入手可能な生乳をチーズと全乳製品に振り向けると推測される。新型コロナの感染拡大による悪影響は限定的であった。可処分所得の増加により、高級な乳製品、特にチーズの輸入が引き続き増加した。

参考資料:

- 1) <https://www.farmonline.com.au/story/7647793/dutch-dairy-farmer-flees-ukraine/>
- 2) <https://tvblik.nl/nieuwsuur/6-maart-2022>
- 3) <https://www.abc.net.au/radionational/programs/countrybreakfast/country-breakfast-features/13790382>
- 4) <https://www.rnz.co.nz/national/programmes/countrylife/audio/2018833859/ukraine-farmer-warns-of-looming-food-crisis>
- 5) https://www.youtube.com/watch?v=6sF-vEA_YKk
- 6) <https://www.kiteconsulting.com/2022/02/25/ukraine-update-impact-on-uk-dairy-industry/>
- 7) <https://ahdb.org.uk/news/summary-of-dairy-trade-ukraine-russia>
- 8) <https://www3.nhk.or.jp/news/html/2022/02/25/k10013500951000.html>
- 9) <https://www.alic.go.jp/content/001155534.pdf> 畜産の情報 2018年11月号、第85~98ページ
- 10) <https://www.fas.usda.gov/data/ukraine-dairy-and-products-annual-6>
(資料閲覧:2022年3月14日)
(Jミルク 国際グループ 新 光一郎)